

こんにちは



“ふるさと岩滑で、歌と生き、花と生き”

小栗大造さん (94歳)

「岩滑の小栗大造氏」といえば「矢勝川の土手を彩る彼岸花200万本」の仕掛け人として、日本国中にその名をとどろかせておられます。その経歴もすでにテレビで、本で、新聞で紹介されていて多くの人の知るところとなっています。それで今回は「歌人・小栗大造氏」としてご紹介したいと思います。

幼いころは「目玉の大ちゃん」と呼ばれていたそうです。90歳を超えた今も知多短歌会に所属して毎月短歌を創り続けている大造さんの原点は、トレードマークの大きな目を見、何にでも興味を示すその性格にあるのではないのでしょうか。大正7年に岩滑で生まれた大造さんは、5歳で父を亡くしてからは母と二人きりの暮らしで、岩滑小学校から半田農学校へと進みました。17・18歳のころ、ふとしたことから俳句を作り始め、それがいつの間にか短歌へと変わっていったそうです。20歳で名古屋第三師団歩兵第六連隊に入隊し、21歳のとき中国へ出征、ほどなく憲兵となり、インドシナ、タイ、ビルマと転戦。死と直面する日々の中にあっても作歌を続け、東京の前田夕暮という有名な歌人のもとに短歌を送って指導を仰いでいたとのこと。大造さんは、昭和22年8月に無事日本の土を踏むことができました。

その脳裏に焼き付けられた鮮烈な記憶は短歌として表現され、平成7年「歌綴・兵一匹の物語—「おっかさん」の題名で出版されました。書くことの好きな大造さんは短歌以外にも、南吉についての記憶、岩滑の今昔、彼岸花にまつわる話と綴りつづけ本にされています。

94歳の大造さんが今持つておられる夢をお訊きすると、大きな目玉をキラッとされ、ウフッと含みのある笑いをされたただけでした。

平成25年(2013) 1月

No.54

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

水野 陽子 百浦 友子 他 (敬称略)

介護保険ひとくちメモ

介護保険の申請から認定まで—(1)—

サービスの利用を希望する人は市町村の窓口
に申請します。申請は本人・家族または地域包括
支援センター・りんりんなどの居宅支援事業所
に代行してもらうこともできます。

いつまでも

夫婦の「絆」
幸福に



びんこう

りんりんのできごと

～ ヘルパー研修会 ～

- 10月 障がい児支援を知ろう 35名
- 11月 防災「東北震災を教訓に—てんでんこ避難の継承」... 45名
- 12月 食支援講座 42名

多世代交流事業

	10月	11月	12月
絵手紙	20名	25名	8名
さをり織り	15名	11名	15名
生き生きサロン	131名	148名	158名
小物づくり	12名	12名	休み

(延べ利用人数)

会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
110名	50名	52名	212名

(H24/12月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



今年は岩滑の年

—岩滑のまちの取り組みとともに—

新年あけましておめでとうございます。

昨年末のあわただしい中で迎えた総選挙、今年は安心して暮らせるようにと期待をしている方は多いことでしょう。

「原発」「消費税」「ひきこもりや不登校」「虐待」など、真剣に考えて取り組まなければならないことは山積みです。こどもたちの将来に「負の財産」ばかりを残すわけにはいきません。みんなが元気に暮らせるまちづくりを本気でやらねばと危機感すら覚えます。

りんりんのある岩滑では、今「岩滑区“防災のまちづくりから安住のまちづくりへ”地域が連携して進める見守り社会実験」の取り組みが



されています。早くから自治活動は活発に行っている地域ですが、行政だけに頼らない自分たちのまちづくりが進んでいます。

60代70代の男女が中心に、みなさんととも生き生きと活躍されている姿にりんりんも大いに刺激を受けています。

今年は岩滑出身の童話作家「新美南吉」生誕100年でもあり、数々の催しも開かれることになっています。ますます岩滑が活気づき、子どもたちをはじめその親御さんの世代も一緒に自分たちのまちのことを考えるいい機会になるでしょう。

りんりんも岩滑の皆さんと一緒に「みんなが元気に暮らせるまち」を目指し、活動していきたいと考えています。

代表 下村 裕子

(株)トヨタ自動織機様

ありがとうございました

平成24年11月25日(日)「(株)豊田自動織機 社会貢献グループ 東知多工場班長会」9名の方が今年度2回目のボランティアとして草取り作業をしてくださいました。

晴天でしたが北風の吹く中、20袋ほどの量の草を刈り取っていただき年始を迎えるにあたり中庭周辺がとてもすっきりしました。

終了後はりんりん茶屋にてうどんを味わっていただきました。ありがとうございました。



～りんごクラブ～ そうきん作り

りんごクラブで12月に取り組んだのは『ぞうきん作り』です。材料のタオルは、保護者の皆さんのご協力で60枚も集まりました。予定数のなんと2倍です！

子どもたちはチャコペンで線を引いたタオルに自分の名前のタグを縫いつけたあと、好きな色の糸を選んで針に通し、ひと針ひと針縫い進めます。女の子も男の子も、真剣な表情で集中します。

りんごクラブの暮れの大掃除で、手作りのぞうきんを使い自分のロッカーをきれいに掃除することが出来ました。



デイサービスやなべ

～ボランティアさん紹介～

鈴木立雄さん(82) 千鶴子さん(76)

小型のキーボードを携え、奥さまと二人三脚で月に3回ほどりんりんのデイサービスやなべに来てくださいます。

立雄さんは元小学校教師の経験を活かし、自在に鍵盤を操り利用者さんのリクエストに応えます。用意された大きな活字の歌詞を見ながら、みんなで歌います。さらに歌をきっかけに世間話や昔の思い出などいろんな話を語りかけて会話をします。時には冗談を言いながらも「話題は相手に合わせて、決して否定しないように…」自然に立雄さんの周りに人の輪ができ、歌っているみなさんの表情が明るく生き生きとしてきます。

16年前ボランティアに誘われ、別の施設でこの活動を始めました。初めて『紀元節の歌』を弾いたとき、それまで反応のなかった95歳の方がメロディーに合わせて歌いだしました。以来、月のうち18日ほどいろいろな施設でのボランティアに出かけるそうです。千鶴子さんも「仕事があつて嬉しい、楽しい」とそばでニコニコ。

家にいるときは、千鶴子さんはパソコンでゲームをしたり立雄さんは奥様に教えてもらって料理を作ったりもするそうです。お互いに協力しあい、日々を楽しむお二人です。



～岩滑あちらこちら～

毎週土曜の朝8時から12時まで岩滑公民館1階で岩滑農業生産組合の方たちによる“朝市”が開かれています！

岩滑地域で作られている野菜・キャベツ・白菜・大根・山芋・里芋や自家製みそなどが、バナナなど仕入れた物と一緒に並んでいます。ほとんどの品物が100円～200円ほどで、新鮮でとても安くなっています。皆さんも一度お出かけください。



南吉を 読んで みよう



～新美南吉生誕100年に寄せて～

「手袋を買いに」は南吉が20歳の時に書いた作品です。

きつねの親子が住む森に冬が来て「お手々がちんちんする」と訴える子ぎつねのために、母ぎつねは手袋を買ってやろうとします。子ぎつねを一人で町に行かせることにし、片手だけ人間の手に変えてやり、白銅貨を持たせませす。

むかし、人間にひどい目に遭ったことのある母ぎつねは決して“きつねのままの手”は出さないよう教えますが、はじめて見る町の灯がまぶしくて子ぎつねは“きつねのままの手”を出してしまいます。

でも、人間はちゃんと手袋を売ってくれました。それを聞いた母ぎつねは「本当に人間はいいものかしら」とつぶやくのです。

南吉の、母への思いがあたたかく伝わる作品です。